

# 時代をかたるメディア

～文書館の近代雑誌～

2005年1月22日(土)～3月13日(日)



## 埼玉県立文書館

### 開催にあたって

「雑誌」という文字が欧米のマガジン (magazine) の訳語として初めて使用されたのは、幕末の1867 (慶応3) 年に江戸で発行された『西洋雑誌』であるといわれています。翌年には、最初の公報『太政官日誌』が発行され、「明治」と改元されました。このように日本における「雑誌」の歴史は、近代とともに始まったといえるでしょう。

このたび、「時代をかたるメディア～文書館の近代雑誌～」と題して、収蔵文書展を開催することになりました。「メディア」には、「媒体」とか「情報伝達手段」などといった意味があります。県内各地で保存されてきた古文書や県の公文書の中には、様々な雑誌が含まれております。雑誌は、それぞれの時代において、埼玉の人々にいろいろな情報を伝えてきました。そして今、私たちに過去の時代をかたってくれます。

今回の展示では、明治から昭和前期にかけての時代の空気を色濃く伝える雑誌を6つのコーナーに分けて紹介します。展示した雑誌からその時代の埼玉のようすを感じていただきたいと思います。

最後に、貴重な文書を御寄贈・御寄託していただきました皆様をはじめ、この収蔵文書展を開催するに当たり御協力をいただきました関係各位に深く感謝申し上げます。





# 時代をかたるメディア ~文書館の近代雑誌~

**1 公報はかたる** 慶応4年最初の公報ともいえる『太政官日誌』が発行されます。『官報』の前身ともいえるものです。埼玉県では、『県報』が発行されます。初期の公報には勸業上の技術的な情報や気象情報なども掲載されていました。

番号	雑誌名・号数	出版年月	出版地	出版者	ひとこと	文書番号
1	太政官日誌 第1	慶応4.2	[江戸]	太政官	慶応4年2月から明治9年12月、第90号迄。毎年号を改め、通計1178冊発行された。第9号の被仰出書には、発行の趣旨が述べられている。	明2(中央令達)
2	太政官日誌 第9	慶応4.4	[江戸]	太政官		明2(中央令達)
3	太政官日誌 第90	明治9.12	[東京]	太政官		明213(中央令達)
4	官報 第1号	明治16.7	東京	龍溪書舎(復刻)	明治16年5月10日太政官達で編輯のことを明らかにし、同年7月創刊。改元ごとに改号し、現在(国立印刷局発行)に至る。彙報欄には、雑報ともいえる様々な記事が載った。	図書A317カ
5	官報 第152号	明治16.12	[東京]	太政官文書局		吉田(実)家945
6	官報 第1176号	平成5.6	東京	大蔵省印刷局		96727
7	類聚官報 明治16年第7月	明治16.8	東京	博聞本社	官報から抜粋した記事を7項目に分け、翌月3日に発行。	小室家4525
8	県報 第1号	明治19.8	[浦和宿]	埼玉県	埼玉県の公報。明治19年8月創刊。改元ごとに改号し現在に至る。週2回(火・金)発行、必要のたびに号外を出す。昭和8年6月の第642号から『埼玉県報』となった。	県1
9	県報 号外	大正12.9	[浦和町]	埼玉県		県75
10	埼玉県報 号外	昭和23.10	[浦和]	埼玉県		県124

**2 政治をかたる** 明治6年の『明六雑誌』を皮切りに啓蒙や政治評論を目的とする雑誌が刊行されてゆきます。埼玉県でも数々の時事評論誌がたびたび筆禍を被りながらも発刊されました。

(1) 時事評論

11	民間雑誌 第1編	明治7.2	東京	慶應義塾出版社	民衆啓蒙を志して発刊されたが、時には政治批判も。	林家7324
12	近事評論 第16号	明治9.9	[ ]	共同社	明治9年6月創刊。16年4月の新聞紙条例のため、5月に廃刊するまで、436号を発行。たびたび発行禁止を命じられながら、その記事の多くは時代の論壇をリードした。	小林(正)家2840
13	近事評論 第29号	明治9.12	[ ]	共同社		小林(正)家2840
14	近事評論 第30号	明治9.12	[ ]	共同社		小林(正)家2840
15	同人社文学雑誌 第19号	明治11.6	東京	同人社	明治9年7月に創刊し16年3月まで続いた評論誌。はじめは月刊、のち半月刊となる。啓蒙家中村敬宇が小石川の自邸に設立した家塾同人社学生の評論会である文学会における筆記を主としている。掲載文は多岐にわたる。	中川家3291
16	同人社文学雑誌 第20号	明治11.6	東京	同人社		中川家3291
17	同人社文学雑誌 第21号	明治11.6	東京	同人社		中川家3291
18	同人社文学雑誌 第22号	明治11.6	東京	同人社		中川家3291
19	溺潭叢談 第7号	明治12.4	東京	馬耳念仏社	明治11年12月創刊。時代の推進力と諧謔性をみせる。15年8月『国友雑誌』と改題する。誌名はデキネイソウダンと読む	小室家4521-5
20	大阪定期雑誌 第9号	明治14.7	大阪	大阪定期雑誌社	明治14年、時事を評論し世論の養成を目的として創刊。	長谷川家847

(2) 政党機関誌

21	立憲改進黨党報 第23号	明治26	[東京]	[立憲改進黨党報局]	明治25年12月創刊、29年1月の第56号まで。	若谷家1635
22	憲政黨党報 号外	明治32.4	東京	憲政黨党報局	明治31年12月創刊。この号外に、板垣退助の演説を掲載。	小室家4452-1
23	政友 第203号	大正6.2	東京	立憲政友会報局	明治33年10月創刊の立憲政友会機関誌。昭和15年9月まで。	船川家2470

(3) 県内時事評論

24	埼玉平民雑誌 第24号	明治25.7	浦和町	埼玉平民社	明治23年12月に川上参三郎によって発行された。平民主義を標榜する自由党系の雑誌。たびたび筆禍を受け、『埼玉新報』『埼玉民報』『新埼玉』『平民雑誌』と改題される。	小室家4431
25	埼玉民報 第1号	明治25.12	浦和町	埼玉平民社		小室家4435-2
26	新埼玉 第1号	明治25.12	浦和町	埼玉平民社		小室家4436
27	埼玉公論 第8号	明治29.1	熊谷町	埼玉公論社	明治26年12月創刊、43年まで続いた。自由党(→政友会)系。県内の明治後期の政治的社会状況をj知る上で貴重。	小室家4414
28	埼玉公論 第74号	明治33.10	熊谷町	埼玉公論社		宇野家2346
29	評論 第1号	明治34.4	[浦和町]	評論社	憲政本党系評論誌。『埼玉公論』と対局的な立場にあった。	宇野家2362
30	埼玉民声 号外	明治27.2	熊谷町	民声社	明治26年3月創刊。自由党系。	持田(文)家133
31	埼玉及埼玉人 第2巻第5号	大正13.11	東京	埼玉及埼玉人社	大正12年4月、山口六郎次により創刊される。愛郷精神を説き、「埼玉スピリット」による県民運動を提唱。第2巻第5号には「埼玉及埼玉人の使命」が掲載されている。	藤城家1197
32	埼玉及埼玉人 第3巻第4号	大正14.5	東京	埼玉及埼玉人社		宇野家2250
33	埼玉及埼玉人 第3巻第5号	大正14.6	東京	埼玉及埼玉人社		宇野家2251

**コラム** 滑稽・諷刺雑誌 時事評論誌の発刊が盛んだった明治期に、滑稽・諷刺雑誌も発刊されました。これらは、時事評論誌とはまた違った角度から痛烈な政治批判を行いました。

34	月とスッポンチ 第1号	明治11.10	東京	興聚社	明治13年2月発行の第56号まで続く。初代柳亭種彦の流れをくむ篠田仙果が発行した投書中心の滑稽雑誌。投稿の選者に、仮名垣魯文、万亭応賀、梅亭金鷲、笠亭仙果などの名がならんでいた。	中川家3365
35	月とスッポンチ 第39号	明治12.5	東京	興聚社		中川家3368
36	月とスッポンチ 第44号	明治12.8	東京	興聚社		中川家3369
37	月とスッポンチ 第45号	明治12.8	東京	興聚社		中川家3369
38	团团珍聞 第82号	明治14.2	東京	团团社	明治10年3月創刊。週刊であった。誌名の「团团珍聞」の「团团(まるまる)」は匿名を意味する「〇〇」に由来。さし画の漫画などによって効果的に政治や社会風俗を批判。	小室家4532-2
39	团团珍聞 第294号	明治15.10	東京	团团社		小林(正)家2109
40	团团珍聞 第614号	明治20.9	東京	团团社		小林(正)家1969

**3 産業をかたる** 明治から昭和前期の主要産業といえば、農林業・蚕糸業があげられます。それらに関わる雑誌もまた、数多く発行されていました。

(1) 農林業

41	農業雑誌 第17巻第30	明治25.10	東京	学農社雑誌局	明治9年1月農学者津田仙が創刊。	小室家4395
42	農業世界 第7巻第12号	大正1.9	東京	博文館	明治39年4月当時の大手出版社である博文館が創刊。	安部家258
43	帝国農会時報 第4号	昭和2.10	東京	帝国農会	昭和2年4月創刊。大衆誌的性格を強め『瑞穂』と改題。	船川家2445
44	農友の友 第1巻第2号	明治31.6	名古屋	農産館	名古屋の農業雑誌。野菜苗の定価表が掲載されている。	小室家4454
45	農談 第115号	明治31.10	森町(静岡県)	帝国農家一致協会出版課	付録に新製品の紹介がある。	小室家4483
46	埼玉県農会報 第26号	明治36.6	浦和町	埼玉県農会	明治33年創刊。31年に成立した埼玉県農会の会報。	宇野家2324
47	埼玉農報 第9年第97号	大正2.7	浦和町	埼玉農報社	明治39年創刊。『農報』(38年4月創刊)の改題。	宇野家2314
48	埼玉県山林会報 第5号	大正13.9	[浦和町]	埼玉県山林会	大正11年4月創刊。10年設立の埼玉県山林会の会報。	宇野家2291
49	埼玉の畜産 第1号	昭和13.4	浦和	埼玉県畜産組合連合会	畜産行政と畜産業界との協力をめざして発行。	宇野家2280
50	日本馬事会雑誌 第2巻第6号	昭和18.6	東京	日本馬事会	昭和17年5月創刊。『馬の世界』と『騎道と鍛錬』の統合誌	宇野家2295

(2) 蚕糸業

51	蚕業之灯 第27号	明治31.7	高野村(茨城県)	蚕業之灯(トビ)社	明治29年5月、現茨城県守谷市の岩田太郎蚕事部創刊。	小室家4458
52	蚕農集報 第35号	明治37.1	豊科村(長野県)	蚕農集報社	長野県で発行された蚕業雑誌。	藤城家2322
53	製糸実験新報 第1号	明治32.2	東京	製糸実験新報社	製糸業の改良のため実験結果を公表する月刊誌。	小室家4594
54	蚕桑新報 第8号	明治30.7	瀬止村(南埼玉郡)	蚕桑試験委員会	足尾鉾毒問題に関し「鉾毒地蚕桑業視察実況」を掲載。	小室家4453
55	絹世界 第4巻第1号	大正2.1	東京	有文舎	県内の織物業の概況や秩父の織物商店の広告も掲載。	飯島(徳)家351
56	蚕業試験場彙報 第6号	大正9.4	[東京]	農商務省蚕業試験場	農商務省蚕業試験場は大正3年6月に設立された。	宇野家2113



番号	雑誌名・号数	出版年月	出版地	出版者	ひとこと	文書番号
57	蚕糸 第18号第259号	昭和5.9	上田	蚕糸雑誌	長野県で発行されたが、寄稿者は全国から。	宇野家2339
58	蚕糸の光 第363号	昭和13.1	東京	蚕糸の光発行所	展示したのは戦時中のもので「軍国農村漫景」などが掲載されている。	宇野家2306
59	蚕糸の光 埼玉版 第375号	昭和14.1	東京	蚕糸の光発行所		宇野家2310
60	蚕業時報 第8号	昭和11.12	[熊谷]	大里郡熊谷市養蚕業組合	昭和6年に公布された蚕業組合法が掲載されている。	宇野家2312

### (3) 産業

61	中外郵便週報 第33号	明治14.8	[ ]	鴻盟社	明治14年1月から16年6月まで。各郵便局の購読が目的。	小林(正)家3145
62	醸造雑誌 第144号	明治27.4	東京	醸造雑誌社	『日本工芸新書』→『通俗工芸雑誌』の後継誌。	西角井家9814
63	埼玉経済時報 第1号	明治31.6	粕壁町	埼玉経済時報社	発刊にあたって知事萩原汎愛も祝詞を寄せている。	小室家4471
64	武毛之実業 第1号	明治33.11	熊谷町	実業社	政党や政派に偏らない中正独立を堅持することを宣言。	宇野家2320
65	埼玉産業界 第2巻第10号	大正10.10	浦和町	埼玉県同業組合連合協会	産業界の「近況報知」を目標にしていた。	宇野家2318
66	ブラジル 第3巻第5号	昭和4.5	神戸	日伯協会	昭和2年1月創刊。別タイトル『移植民と貿易』	安部家127

**コラム** 事件と雑誌① 明治26年、霜害への救助金をめぐって、秩父郡でおきた農民運動について述べている『平民雑誌』です。この雑誌は先の『埼玉平民雑誌』などを発行していた埼玉平民社から発行されました。事件に関する辛口の批評を御覧ください。

67	平民雑誌 第2号	明治26.10	浦和町	埼玉平民社	明治26年9月創刊。川上参三郎の埼玉平民社発行。	田中(恭)家2106
----	----------	---------	-----	-------	--------------------------	------------

## 4 教育をかたる

ここでは県内の教育雑誌や、同窓会誌などを中心に展示します。当時の教育に対する考え方などをうかがい知ることができます。

68	埼玉教育雑誌 第1号	明治16.10	浦和宿	埼玉私立教育会事務所	埼玉私立教育会は明治16年7月に全県教育の隆盛を図ることを目的として発足。その主な仕事としてこの雑誌を発行。当初は開発主義に基づく教授法の論文が多く掲載された。21年の秋頃から教育思想が全国的に変わり始めると、雑誌の内容も教授法から教育目的論が中心となり、教師による教育経験の発表なども掲載された。37年廃刊。	小室家4273
69	埼玉教育雑誌 第41号	明治20.2	浦和宿	埼玉私立教育会事務所		小室家4297
70	埼玉教育雑誌 第59号	明治21.8	浦和宿	埼玉私立教育会事務所		小室家4309
71	埼玉教育雑誌 第117号	明治26.6	浦和町	埼玉私立教育会事務所		小室家4351
72	埼玉教育雑誌 第141号	明治28.6	浦和町	埼玉私立教育会事務所		小室家4373-1
73	埼玉教育雑誌 第153号	明治29.6	浦和町	埼玉私立教育会事務所		小室家4385
74	芸林珠璣 第19集	明治14.3	[浦和町]	埼玉県立中学師範学校	明治12年9月創刊。同校生徒の漢文・国文の作文集。	長谷川家1049
75	埼玉女子学友会雑誌 記念号	明治44.2	[浦和町]	埼玉女子学友会	埼玉県女子師範学校と県立浦和高等女学校の分立記念	中川家3069
76	会報 第1号	明治44.7	[浦和町]	埼玉県女子師範学校学友会	初等教育女子教員の養成機関である埼玉県女子師範学校の学友会と同窓会の会報。	中川家3064
77	会報 第2号	明治45.3	[浦和町]	埼玉県女子師範学校学友会		中川家3065
78	麗和会雑誌 第25号	大正6.3	浦和町	麗和中学	麗和会は浦和中学校の教職員、生徒、卒業生による組織。	土屋家808
79	校報 第14号	大正7.5	中条村(北埼玉郡)	中条尋常高等小学校	中条村は現熊谷市。県の訓令から生徒の作文まで掲載。	中村(宏)家318
80	埼玉教育 第183号	大正12.7	浦和町	埼玉県教育会事務所	埼玉県教育会の機関誌。明治39年の創刊時のタイトルは『埼玉県教育会雑誌』であった。同会は、各郡教育会を構成単位とし、発足や財政的にも県の力添えが大きかった。教員の相互研修による教育の隆盛発展を目的とした。	宇野家2246
81	埼玉教育 第188号	大正13.1	浦和町	埼玉県教育会事務所		宇野家2232
82	埼玉教育 第221号	大正15.10	浦和町	埼玉県教育会事務所		宇野家2229
83	埼玉教育 第222号	大正15.11	浦和町	埼玉県教育会事務所		宇野家2230
84	学士会月報 第466号	昭和2.1	東京	学士会事務所	明治21年1月創刊。帝国大学学士会の会報。	長谷川家1365
85	好古雑誌 初篇第1号	明治14.7	東京	好古社	好古社は、明治14年国学者でもあった福羽美静らが創立。古器旧物の収集とその保護を目的に結社した。出版人の吉川半七は、吉川弘文館の創業者。	小室家4501-1
86	好古雑誌 初篇第2号	明治14.8	東京	好古社		小室家4501-2
87	好古雑誌 初篇第7号	明治15.1	東京	好古社		小室家4501-7
88	日本速記通信 第29号	大正5.8	久喜町	日本速記通信社	日本における速記の歴史も明治期から始まる。	藤城家783

**コラム** 事件と雑誌② 昭和8年、京都大学の滝川幸辰教授が自由主義思想を理由に強制免官され、それに対して京都大学法学部教授団と学生が抗議運動を起こします。京大事件(滝川事件)といわれています。ここではその事件の当事者である京都大学法学部教授団の声明文が掲載された雑誌を展示します。

89	法学叢論 第29巻第6号	昭和8.6	京都	京都帝国大学法学会	大正8年1月創刊。『京都法学会雑誌』の後継誌。	佐々木家61
----	--------------	-------	----	-----------	-------------------------	--------

## 5 文芸をかたる

明治初期の戯作雑誌や講談雑誌は、人々に大変愛読されました。ここでは、そういった雑誌のほかに、昭和期の俳句雑誌も展示します。

90	花月新誌 第11号	明治10.5	[東京]	花月社	明治10年1月~17年10月、155号迄。主宰は成島柳北。	小林(正)家2901
91	芳譚雑誌 第56号	明治12.4	東京	愛善社	戯作雑誌。家庭常備業『宝丹』本舗のPR誌であった。	中川家2394
92	有喜世の花 第26号	明治31.6	東京	有喜世館	講談雑誌。明治30年4月創刊。	森泉家4797
93	人情世界 5年第42号	明治33.10	東京	日本館本部	明治29年7月創刊の娯楽読物・講談雑誌。人気雑誌だった。	藤城家1194
94	麗和新誌 第1号	明治12.1	浦和宿	麗和吟社(開益社内)	俳諧・漢詩雑誌。儒学者・教育者芳川恭助も同人であった。	中川家2957
95	斯水 第123号	昭和14.6	川口	このみつ発行所	活字版となった祝辞が掲載されている。	新藤家501
96	かびれ 第12巻第8号	昭和17.8	日立	加毘礼吟社	昭和6年3月創刊。主宰は大竹孤悠、編集小松原爽青。昭和19年雑誌統合下においても残存した全国20誌のひとつとして継続刊行、現在に至る。	新藤家544
97	かびれ 第13巻第7号	昭和18.7	日立	加毘礼吟社		新藤家545
98	かびれ 第16巻第5号	昭和21.7	日立	加毘礼吟社		新藤家547
99	水明 第13巻第1号	昭和17.1	東京	水明発行所	昭和5年9月創刊。長谷川零余子主宰俳誌『枯野』をつぎ、	新藤家424
100	水明 第14巻第12号	昭和18.12	東京	水明発行所	虚子門で浦和町在住の長谷川かな女が発刊した。戦争中には	新藤家449
101	水明 第15巻第1・2号	昭和19.2	東京	水明発行所	廃刊を宣言したが、存続を認められ現在に至る。	新藤家440
102	馬酔木 第22巻第1号	昭和18.1	東京	馬酔木(アシビ)発行所	昭和3年7月創刊の俳句雑誌。主宰水原秋桜子。	新藤家485
103	木太刀水明 第42巻第6号	昭和19.6	東京	木太刀水明社	俳句雑誌。『木太刀』の改題。第42巻第6号の表紙は川合玉堂の絵が使われている。	新藤家477
104	木太刀水明 第42巻第8号	昭和19.8	東京	木太刀水明社		新藤家479
105	洪柿 第354号	昭和18.10	栃木	洪柿社発行部	大正4年2月松根東洋城が主宰創刊した俳句雑誌。	新藤家500

**コラム** 戦争と雑誌 戦争は雑誌の発行にも大きな影を落としました。ここでは、戦時中に政府が戦意高揚を意図して発行した広報誌や雑誌の用紙節約に関する県行政文書を展示します。

106	週報 第203号	昭和15.9	東京	内閣印刷局	昭和11年10月から昭和20年8月までに452号が刊行された週刊の政府宣伝広報誌。表紙の色は緑色であったのが、戦局の悪化に伴う物資の不足等により、緑色の色合いが変化。くすんだ緑から白い表紙に緑の帯のみになる。	飯島(徳)家364
107	週報 第208号	昭和15.10	東京	内閣印刷局		飯島(徳)家365
108	週報 第253号	昭和16.8	東京	内閣情報局		飯島(徳)家370
109	週報 441・2合併号	昭和20.4	東京	印刷局		宇野家2293
110	写真週報 第263号	昭和18.3	東京	内閣印刷局	『週報』の姉妹誌として昭和13年2月に創刊される。	山口(善)家1
111	国策放送 第2巻第2号	昭和17.2	東京	日本放送出版協会	昭和16年4月創刊。『放送ニュース解説』の改題。	中原(英)家278
112	書籍及雑誌用紙ノ使用節約ニ関スル件	昭和16		埼玉県行政文書	書籍や雑誌の用紙節約を求めた商工省繊維局長通牒。	昭4082(物資)



6 **くらしをかたる** 現在わたしたちの生活に雑誌はかかせないものになっています。  
くらしに深く関わる婦人雑誌や児童雑誌、総合誌・趣味の雑誌を展示します。

(1) 婦人・家庭

番号	雑誌名・号数	出版年月	出版地	出版者	ひとこと	文書番号
113	家庭雑誌 第110号	明治30.11	[ ]	家庭雑誌社	明治25年9月創刊、31年8月まで。主筆は徳富蘇峰。	小林(正)家2106
114	をんな 第4巻第2号	明治37.2	東京	大日本女学会	明治34年1月創刊。明治28年に女性向けの通信教育を始めた大日本女学会の機関誌。津田梅子らが寄稿した。『なでしこ』(38年11月)、『大和なでしこ』(41年3月)と改題される。『なでしこ』の表紙は美術の資料にもなるように毎号デザインが変えられていた。	中川家3038
115	なでしこ 第6巻第10号	明治39.8	東京	大日本女学会		中川家3042
116	なでしこ 第7巻第6号	明治40.4	東京	大日本女学会		中川家2869
117	大和なでしこ 第8巻第12号	明治41.9	東京	大日本女学会		中川家2962
118	大和なでしこ 第10巻第5号	明治43.3	東京	大日本女学会		中川家2969
119	婦人界 第3巻第3号	明治37.3	[東京]	金港堂書籍	明治35年7月創刊。執筆者には西園寺公望らの名が。	小林(正)家2055

(2) 児童

120	小学雑誌 第1号	明治15.6	東京	修正社	学童が天下の形勢や内外の「新聞奇報」を知ることを意図。	小室家4532-1
121	日本之少年 第2巻第10号	明治23.5	東京	博文館	明治22年1月創刊の少年向け教養雑誌。28年1月『幼年雑誌』『学生筆戦場』『少年文学』『幼年玉手函』と合併し『少年世界』と改題。『少年世界』は総ルビで挿絵が多かった。主筆巖谷小波を始めとする執筆陣は充実していた。	田中(恭)家2105
122	少年世界 幼年部 第2巻第16号	明治29.8	東京	[博文館]		小林(正)家2045
123	少年世界 第3巻第2号	明治30.1	東京	博文館		小林(正)家2113
124	少年世界 第5巻第4号	明治32.2	東京	博文館		小林(正)家2631
125	少年界 第4巻第5号	明治38.4	東京	金港堂書籍	明治35年2月創刊。主筆は山県悌三郎。	中川家2876
126	コドモのテキスト 昭和4年5月放送	昭和4.5	東京	日本放送協会関東支部	子ども向けラジオ番組のテキスト。挿絵が美しい。	安部家263

(3) 趣味

127	文芸春秋 第16巻第11号	昭和13.7	東京	文芸春秋社		新藤家416
128	文芸春秋 第22巻第9号	昭和19.9	東京	文芸春秋社	大正12年1月、菊池寛が創刊。当初は同人誌風であったが15年11月から総合雑誌となる。戦争中には用紙の統制から、ページ数も少なくなり、昭和20年3月号まで出してから以後休刊、終戦後の20年10月号から復刊する。	新藤家410
129	文芸春秋 第23巻第5号	昭和20.11	東京	文芸春秋社		新藤家395
130	文芸春秋 第24巻第1号	昭和21.1	東京	文芸春秋社		新藤家393
131	文芸春秋 第24巻第4号	昭和21.6	東京	文芸春秋社		新藤家397
132	中央公論 第54年第1号	昭和14.1	東京	中央公論社	明治32年1月『反省会雑誌』(20年創刊)より改題し総合誌へ。	新藤家419
133	サンデー毎日 第21年第45号	昭和17.11	大阪	大阪毎日新聞社	大正11年4月創刊。当初は時事解説、論説、スポーツ、経済などの記事を掲載。後に連載小説が人気になる。	小林(茂)家4896
134	サンデー毎日 第21年第48号	昭和17.12	大阪	大阪毎日新聞社		小林(茂)家4898
135	ミュージック 第1巻第1号	昭和21.11	東京	アポロ出版社	主筆は音楽評論家の大田黒元雄。昭和22年『音楽』と改題。	新藤家493

期間中に一部展示替えを予定しています。

番号と展示順序は異なることがあります。

展示終了後でも上記の展示資料は文書閲覧室で御覧いただくことができます。(一部資料は複製の閲覧となります。)

主要参考文献

図書

- 『日本近代文学大事典 第5巻 新聞・雑誌』 講談社 1977
- 『明治時代の新聞と雑誌』 至文堂 1961
- 『明治文化全集 第5巻 雑誌篇』 日本評論社 1968(第3版)
- 『所沢市史調査資料 別集7・8 所沢関係新聞雑誌記事資料 1・2 明治編・大正編』 所沢市史編さん室 1985-86
- 『寄居町史編さん調査報告 第2集 新聞・雑誌記事目録・資料集』 寄居町教育委員会 1978
- 『創刊号のパノラマ』 うらわ美術館 2004
- 『絵本・雑誌に見る昭和の世相』 埼玉県平和資料館 2000
- 『少年少女雑誌の世界』 さいたま文学館 2002
- 『国史大辞典』 吉川弘文館 1979-97
- 『日本近現代人物履歴事典』 東京大学出版会 2002
- 『埼玉大百科事典』 埼玉新聞社 1974-75
- 『埼玉人物事典』 埼玉県 1998
- 『新編埼玉県史』 埼玉県 1979-93
- 『埼玉県行政史』 埼玉県 1987-90
- 『太政官日誌』 東京堂出版 1984
- 『帝国農会史稿』 農民教育協会 1972
- 『郵政百年史資料 第10巻』 吉川弘文館 1969
- 『大宮市史 別巻2』 大宮市 1995
- 『埼玉県議会史 第2巻』 埼玉県議会 1958
- 『銀杏樹』 埼玉県立浦和高等学校創立百周年記念事業実行委員会 1995
- 『武器なき戦い』 埼玉県平和資料館 2002

雑誌論文

- 『埼玉県立文書館収蔵近代雑誌目録』 井上涼子著 (『文書館紀要 第6号』 埼玉県立文書館 1992)
- 『埼玉県の新聞雑誌文化年表』 その1・その2 池田文痴庵著 (『武蔵野史談 第1巻第2号・第6号』 埼玉郷土文化会 1952-53)
- 『埼玉県新聞雑誌史覚え書 1』 三木民夫著 (『埼玉民衆史研究 7号』 埼玉民衆史研究会 1981)

この他に、大宅壮一文庫・国立国会図書館・国立情報学研究所・埼玉県立図書館のホームページを参考にさせていただきました。

平成16年度第2回収蔵文書展

時代をかたるメディア

~文書館の近代雑誌~

発行日：平成17年1月

編集・発行：埼玉県立文書館

〒330-0063

さいたま市浦和区高砂4-3-18

TEL 048-865-0112 FAX 048-839-0539

<http://www.pref.saitama.lg.jp/A20/BA18/index1.html>

利用案内

開館時間 9:00~17:00

休館日 月曜日、国民の祝日・休日、  
毎月末日、年末年始  
特別整理期間(春秋各10日以内)

交通案内

JR京浜東北線・高崎線・宇都宮線：  
浦和駅西口下車徒歩12分  
JR埼京線：  
中浦和駅下車徒歩15分  
国際興業バス：県庁裏下車

